



ながめて楽しむだけでなく ふれて感じる生物多様性



▲見せる(魅せる)収蔵庫では、猛獣たちも剥製なら
間近で見ることができる



▲「ユリ子」の全身骨格標本と半身レプリカに圧倒。
飼育された3頭のゾウの歴史も知ることができる



**長年、天王寺動物園の
アイドルを務めたユリ子に会える**

天王寺動物園の新世界ゲートを通つてすぐの場所にあり、記念撮影スポットとして親しまれている白雪姫時計台。先月、この時計台を挟んで東西に2つの新施設「学習棟」「休憩棟」がオープンしました。副園長の今西隆和さんに案内していただきました。

ひとつは、学習棟の「TENNOJI ZOO MUSEUM」。教育施設という側面を持つ動物園には、剥製標本が多数保管されています。学習棟の標本展示コーナーでは、このうち絶滅の危機



▲骨格標本の魅力について語る、獣医で副園長の今西隆和さん

にある動物種を展示し、解説しています。中でもひととき存在感を放つのが、体高2・6メートルのアジアゾウ・ユリ子の全身骨格標本と半身レプリカです。ユリ子は、昭和25(1950)年にタイから来園後、平成12(2000)年に亡くなるま

にある動物種を展示し、解説しています。中でもひととき存在感を放つのが、体高2・6メートルのアジアゾウ・ユリ子の全身骨格標本と半身レプリカです。ユリ子は、昭和25(1950)年にタイから来園後、平成12(2000)年に亡くなるま

で50年余り、来園者の皆さんに愛されてきました。動物園では、戦後3頭のゾウを飼育していましたが、園内に骨格標本が残っているのはユリ子だけで、とても貴重な資料です。これまで、ユリ子の標本は、期間限定で展示される以外、倉庫に保管されてきましたが、ようやく常設展示でその姿を見られるようになりました。

「当時を知るベテランの飼育員は、約3メートルに組み上がった骨格標本とお腹に土がついていたり砂遊びの様子が残るリアルなレプリカを眺めて「ユリ子や!」と感慨深い様子でした」

また、ガラス張りの「見せる(魅せる)収蔵庫」には、ホッキョクグマやワシタカなど約280点の剥製標本が入れ替えられながら展示されます。なかなか近づいて見ることができない動物たちのリアルな表情や牙や毛並みまでじっくり観察することができます。

ふれながら学ぶ生物多様性

学習棟には、大型スクリーンを備え、講演や大規模スクリーンが開催可能な定員240名の多目的ホールやシンク付きの実験・作業室、多目的室が新設されました。ここでは、楽しみながら学べる体験型のワークショップが企画されています。

「例えば、選別前のちりめんじゃこから、エビ・カニや稚魚を探す「チリメンモンスター」や、ワシやタカなど猛禽類が吐き出したエサの残骸(ペリット)から、エサとなったラットなどの毛や骨などを観察するワークショップなどを企画しています。動物にふれながら食のつながりや生物多様性について考える機会になればうれしいですね。当日申込可能なものもあるので、気軽に参加していた



▲学習棟の館内の床には動物たちの足あとがあらわれている



▲つぶらな瞳が愛くるしいホッキョクグマのアイスクリーム



▲かわいい動物のグッズが揃う「Goo Zoo(グーズー)」では、ニュージーランドの固有種で国内では天王寺動物園のみが飼育している珍しい鳥・キウウィのぬいぐるみが、キウイフルーツのように鈴なりに

「例えば、選別前のちりめんじゃこから、エビ・カニや稚魚を探す「チリメンモンスター」や、ワシやタカなど猛禽類が吐き出したエサの残骸(ペリット)から、エサとなったラットなどの毛や骨などを観察するワークショップなどを企画しています。動物にふれながら食のつながりや生物多様性について考える機会になればうれしいですね。当日申込可能なものもあるので、気軽に参加していた

「当時を知るベテランの飼育員は、約3メートルに組み上がった骨格標本とお腹に土がついていたり砂遊びの様子が残るリアルなレプリカを眺めて「ユリ子や!」と感慨深い様子でした」

また、ガラス張りの「見せる(魅せる)収蔵庫」には、ホッキョクグマやワシタカなど約280点の剥製標本が入れ替えられながら展示されます。なかなか近づいて見ることができない動物たちのリアルな表情や牙や毛並みまでじっくり観察することができます。

ふれながら学ぶ生物多様性

学習棟には、大型スクリーンを備え、講演や大規模スクリーンが開催可能な定員240名の多目的ホールやシンク付きの実験・作業室、多目的室が新設されました。ここでは、楽しみながら学べる体験型のワークショップが企画されています。

「例えば、選別前のちりめんじゃこから、エビ・カニや稚魚を探す「チリメンモンスター」や、ワシやタカなど猛禽類が吐き出したエサの残骸(ペリット)から、エサとなったラットなどの毛や骨などを観察するワークショップなどを企画しています。動物にふれながら食のつながりや生物多様性について考える機会になればうれしいですね。当日申込可能なものもあるので、気軽に参加していた

「当時を知るベテランの飼育員は、約3メートルに組み上がった骨格標本とお腹に土がついていたり砂遊びの様子が残るリアルなレプリカを眺めて「ユリ子や!」と感慨深い様子でした」

また、ガラス張りの「見せる(魅せる)収蔵庫」には、ホッキョクグマやワシタカなど約280点の剥製標本が入れ替えられながら展示されます。なかなか近づいて見ることができない動物たちのリアルな表情や牙や毛並みまでじっくり観察することができます。

ふれながら学ぶ生物多様性

学習棟には、大型スクリーンを備え、講演や大規模スクリーンが開催可能な定員240名の多目的ホールやシンク付きの実験・作業室、多目的室が新設されました。ここでは、楽しみながら学べる体験型のワークショップが企画されています。

「例えば、選別前のちりめんじゃこから、エビ・カニや稚魚を探す「チリメンモンスター」や、ワシやタカなど猛禽類が吐き出したエサの残骸(ペリット)から、エサとなったラットなどの毛や骨などを観察するワークショップなどを企画しています。動物にふれながら食のつながりや生物多様性について考える機会になればうれしいですね。当日申込可能なものもあるので、気軽に参加していた

天王寺動物園

茶臼山町1-108
☎6771-8401

開園時間
9時30分～17時
※入園は16時まで
※土・日祝日と4月9日(金)までは
要事前予約

休園日 毎週月曜日(休日にあたる場合は翌平日)

天王寺動物園
てんのうじどうぶつえん

「ホッキョクグマの「ホウちゃん」元気に育っています」

昨年11月25日に生まれた「ホウちゃん」は、お母さんの「イツちゃん」の愛情に包まれてすくすくと育っています。当面の間、公開は15時までとなります。また、天王寺動物園公式YouTubeでは、ホウちゃん

の成長の記録や、イツちゃんの子育ての様子がご覧いただけます。
(3月22日時点の情報です。)

「向井園長より就任のご挨拶をいただきました」

4月1日付けで地方独立行政法人天王寺動物園の園長に就任しました向井と申します。円山動物園での経験や動物愛護行政での経験を活かし、更なる動物福祉の向上をめざします。市民の皆様のご協力をいただき、皆様に愛される「ひとにも動物にも優しい」天王寺動物園を創ってまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

地方独立行政法人
天王寺動物園
園長理事兼務
向井 猛

天王寺区の統計
(令和3年3月1日現在)
●推計人口: 82,478人
●世帯数: 42,426世帯 ●面積: 4.84km²

天王寺区役所
●天王寺区役所・保健福祉センター
〒543-8501 真法院町20-33
●ホームページ www.city.osaka.lg.jp/tennoji

目次

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントなどが変更または中止となる場合があります。

- 2 きらり★天王寺 天王寺動物園に新施設がオープン
- 3 お知らせ
- 4 保健衛生
- 5 子育て情報
- 6 イベント情報
- 8 わがまち天王寺
- 9 大阪市民のみなさんへ
- 12 SDGs/JR西日本「ちょこっと関西 歴史たび」/鶴橋地区バリアフリーマップ/安まちアプリ